

E 型 肝 炎

E 型肝炎は、以前、経口伝播型非 A 非 B 型肝炎と呼ばれた疾患で、E 型肝炎ウイルス (hepatitis E virus : HEV) によって引き起こされる急性肝炎です。

本疾患は、主に開発途上国で散発的に発生しており、先進国では開発途上国への旅行者による感染事例が多かったことから「輸入感染症」として認識されていました。しかし、近年、全く渡航歴の無いヒトの E 型肝炎症例や、ブタなどの動物から遺伝子学的にヒトの HEV に極めて類似するウイルスが検出されていることから、人獣(畜)共通感染症としての可能性が示唆されています。さらに、本年 8 月に、野生シカ肉の生食により HEV に感染した事例が報告され、国内での感染が注目されています。

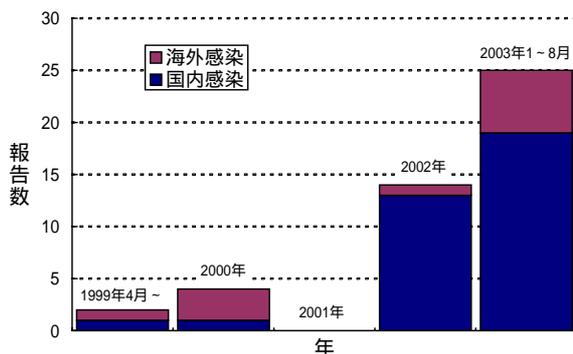
今回はこの E 型肝炎について紹介します。

流行状況と感染経路

主としてアジア、アフリカ、ラテンアメリカにおける衛生状態が悪い開発途上国において流行が見られています。HEV の伝播は経口感染によるもので、多くは糞便により汚染された飲料水が流行の原因となっています。ヒトからヒトへの感染は報告されていません。

我が国においては、流行地域への渡航による感染例がほとんどを占めていましたが、最近では国内での感染例の報告が増加しています。

図. 急性 E 型肝炎報告数



(国立感染症研究所発行 感染症週報第 5 巻第 35 号より抜粋)

病原体

HEV は小型の球形ウイルスで、その形状からカリシウイルス科に分類されていましたが、遺伝子構造上の相違により現在は未分類のままとなっています。ヒトから検出される HEV と類似したウイルスが、ブタ、ヤギ、

ヒツジ、シカなどからも検出されています。

病原性と症状

HEV は感染しても慢性化することなく、多くの場合、肝炎を発症しないまま抗体が検出される不顕性感染となります。発症した場合の症状は、平均 5～6 週間の潜伏期間を経て、発熱、全身倦怠感、黄疸等の A 型肝炎と類似の症状を呈します。E 型肝炎の特徴として致死率の高さがあげられます。致死率は全体として 1～3%と A 型肝炎よりも約 10 倍高く、さらに妊婦の場合は 15～25%にも達します。また、若年齢層よりも成人が発症しやすいという特徴があります。感染後、終生免疫を獲得するかどうかはわかっていません。

治療法

治療法としては、急性期の対症療法しかありません。ワクチンは、現在開発中です。

消毒

ウイルスの構造上にエンベロープ(核酸の殻を取り巻く蛋白質、脂質、糖質からなる外被)は存在せず、消毒剤や熱に抵抗性があることが想定されます。同じくエンベロープの存在しない A 型肝炎ウイルスに対する消毒法から推定すると、熱水消毒(95℃, 15～20分)や 2%グルタール、あるいは 0.5%次亜塩素酸ナトリウムが効果を期待できると思われます。

予防対策

汚染地域と考えられる場所に渡航した場合、飲料水、食物に注意し、基本的には加熱したもののみを摂取するように心がけます。また、国内においてもイノシシやシカなどの野生動物は、HEV だけでなく人獣(畜)共通感染症や食中毒の原因となる微生物を保有している可能性があることから、生食は避けるべきです。もし食べる場合は、十分に加熱してから食べましょう。むやみに恐れるのではなく、日頃の衛生管理をきちんと行うことが重要です。【微生物担当】